

のぞみ

2018冬号
vol.5



〈特集〉

どう向き合う？

高齢者の犯罪

- ふるさと探訪／崇仁の歴史
- 活動レポート／島原
- のぞみの園は働きやすい職場
- 新人紹介・のぞみ食堂





時事
コラム

高齢者の犯罪

■新しい支援の窓口
「入口支援」「出口支援」といって事業費を耳にされたことがありませんが、最近、新聞やテレビで取り上げられることが増えています。刑務所を出た者や福祉施設にうつりかかっている、再犯するなどの再犯率を減らすために「出口支援」といって、高齢者の住み慣れた地域でも仕事もできない者や障害者を抱えているが支援する人がいない者が社会に返っても、自分一人を生き残ることは困難です。このため、出口支援が再犯防止のために重要な役割を果たすこととなります。

■高齢者犯罪の実態
昨年10月、京都府刑務所を訪れました。近年、刑務所に福祉出向員が配置され、そこで働く社会福祉士について学ぶためです。京都には、平安時代に獄舎が2か所存在したと伝えられていますが、その後統合して、大正11年に京都刑務所と称されるようになり、昭和の年に現在の場所に移転されました。全国には数多くの刑務所が存在しますが、京都刑務所では、成人収容刑罰者のうち、比較的、刑が軽い犯罪を繰り返す者及び、外田の方が改善されています。入所者数は平均千人、入所者の平均年齢は48歳、60歳以上の者は約17%、入所所を繰り返す者も多く、刑務所での年数も長くなっていく者も少なくない者もいます。

■社会全体の理解と居場所作り
仕事の中で、高齢者の引き返しの相談を受けたことがありません。経済的困難に陥って引き返してしまっている者がいる一方で、経済的には困難ではないが引き返さずしてしまっているケースもあり、私が関わった事例は、後者の中でも認知症があります。高齢金はあるにもかかわらず、引き返さずしてしまっています。本人は「貯蓄金があることを理解できません。」「お金ははたいて」と言われています。本人には、落ちたところの自覚がなく、自分が抱えている問題を解決しようとする気持ちはありません。犯罪者として罰を受けるのではなく、貧窮が原因であること、高齢や病弱等の社会資源のみならず、社会全体が理解し、認知症の方々にやさしい社会にしていきたいことを、私たちの役割ではないかと思っています。

また、逮捕、勾留中などの早い段階から、福祉に近づき支援策を開始すること（入口支援）といえます。入口支援から始めることにより、更生の可能性がさらに高まることを期待されています。

京都市下京・東部地域福祉支援センター 樋口 由

社会福祉法人 カトリック京都教区カリタス会 基本理念

キリストの姿に学びながら、一人ひとりに寄り添う
神から与えられた一人ひとりの命の尊厳に目を向け、
一人ひとりを掛け替えない存在として、ありのままに受け入れる。
一人ひとりの成長とより豊かな生き方を願い、
「愛」と「尊厳」を持って、一人ひとりに寄り添う。

総合福祉施設 東九条のぞみの園 基本理念

私たちはキリスト教的相互愛の精神に則り、
ご利用者の人格と尊厳を守ります。
人としての命の輝きに寄り添い、専門性を高め創造力と希望をもって
一人ひとりの思いを実現するケアを目指します。

【行動規範】

- 共生** 私たちは、国や民族、地域や個人の歴史と文化を尊重し、地域社会での役割を果たします。
- 協働** 私たちは目標を共有し、向上心と探究心をもって互いに学び高め合い働いていきます。
- 信愛** 私たちは信頼と思いやりの精神を育み、誠実に高齢者のケアに向き合います。

基本理念は、施設が目指すべき方向、私たちが職員として「あるべき姿」を明文化したものです。カリタス会としての法人理念を土台とし、それぞれの地域特性に応じた施設理念・行動規範へと具体化されます。福祉・介護の仕事は感情労働とも呼ばれ、援助者ならではの無業感や葛藤に苛まれることが多くあります。そんな時、自身の使命や存在意義を現す「理念」に救われることも多く、自分自身が立ち戻る軸として、また、心の拠り所として、これからも「私たちの合言葉」といえる基本理念を大切にしていきたいと思えます。

職員の違い

東九条のぞみ支援センターで勤務し10年になります。その間、たくさんの方々の利用を体験し、関わらせていただきました。たより暮らしの方も多く、訪問時には、幸しかった出来事や、寂しい思い、身体の不調など、たくさんのお話をしてくださいます。基本理念にもあるように、楽しいことはともに喜び、困っていることは一緒に悩みながら良い方法がないかと日々考えています。気軽に相談が出来る場所があることで、利用者様へ介護をされている家族様に少しでも安心して暮らして頂けるよう、基本理念を忘れず努めています。と思っています。

東九条のぞみ支援センター ケアマネージャー 八世信子

鳥居のぞみデイサービスに勤務させて頂く事となり、早13年となります。当初は仕事に慣れるのに精一杯で、私にとって基本理念は、日々のケアとはかけ離れた高いところにあるものに感じていました。少しずつ仕事に慣れ、施設内の研修に参加する中で、日々基本理念を意識したり、改めて考えたりする事ができるようになってきたと思います。デイサービスでの利用者様との関わりの中では、「二期一会」を意識してお声掛けするようにしています。特に体調が悪い時は不安になる方がほとんどです。安心して、少しでも楽に過ごして頂けるよう努めています。的確な判断で医療機関につなげる事も命を守ることも大切な役割です。

一人一人の利用者様が「デイサービスに来て今日も楽しかった」と笑顔で帰って行かれるよう、傾心する事なく進んでいきたいと思っています。

鳥居のぞみデイサービス 看護士 中野直司

ふるさと探訪

第一回/崇仁の歴史 ～誇りうる歴史とまち～

文：崇仁デイサービスうるおい 機能訓練指導員 山内 政夫



明治時代、鴨川を挟んで七条通付近の東西は「大仏柳原庄」と呼ばれる土地であった。明治4年に身分制が廃止された後、鴨川の三箇村が新しい柳原庄として独立したコミュニティを形成した。その頃、柳原小学校が創立され、翌年に本校舎が落成し、柳原庄校に改称された。一方で、この時代の財政政策により、近代に入って成長しつづいた産業は壊滅的な状況を迎え、この地域も例外ではなかった。多くの職人が失業し、貧困層の滞留もあった。そのような中、貧困と差別に立ち向かうために自主的改善運動を行う人たちが、柳原尋常小学校新校舎の建築を行い、世間の偏見や差別意識を変えていくことを目的として柳原銀行が設立された。

しかし、社会の差別の壁は高く、大正期にこの地域は激動の時代を迎えることとなる。自主的改善運動の終焉により、地域から富階層が流出するのに歯止めがきかなくなり、貧困層が区内で滞留し、さらに他地域からの流入もあった。この頃、柳原尋常小学校から崇仁小学校へと改称され、大正9年、伊東茂光が校長に就任。のちに同和教育の源流と目わられた「崇仁教育」を形作っていった。

伊東は陸上競技の強化に尽力した。「・・・尚本校運動を奨励し、特に陸上競技を盛んにやっております。これは前の如く心身を鍛練するとともに、勝つことによつて自信を得るため、自見自屈を戒め、尚前頭意気を昂揚するためであつて、ただ優勝旗を得んがためではないのであります。尚同時に、無

理解なる外部に向かって我校児童の実方の認識を要求し、謂われなき困難による誤解概念を解くことも企図してゐるのであります。これが伊東が陸上運動を強力に推し進めた理由である。

3年生以上の子どもたちが1日も休まず、放課後から日暮れまで教師と共に練習に明け暮れた。伊東は、練習が終わるまで見守っていたという。崇仁小学校の子どもたちは、「全日本女子オリンピック大会」で3連覇を飾るなど、各種大会で優勝を重ね「走りの崇仁校」と呼ばれるようになったのである。しかし、崇仁小学校は子どもたちの減少により、平成21年度末をもって閉校し、彦成小学校へと統合された。その後、元崇仁小学校の校舎やグラウンドは、市民活動の場として提供されている。

この地に、約3年前「京都市立芸術大学」が移転すると門川市長が発表された。数年先の完成を目指して、現在「設計者」も選定され移転交渉が進められている。崇仁デイサービスうるおいと京都市下京・東部地域包括支援センターがこの地に設立し、今年10年の節目を迎える。「崇仁教育」を受け育ってこられた方々と出会う機会がある私たち職員は、利用者様の声や思いに耳を傾け、望む生活の実現に向け、共に考え共に歩んでいきたい。

*写真左：崇仁小学校校舎
*写真右：柳原銀行旧本館（移築建物）
① 柳原銀行旧本館 第14回特別展より撮影

崇仁学区のソウルフード!! ちよぼ焼き

「ちよぼ焼き」は崇仁学区で昔からたくさんの人々に親しまれてきました。崇仁学区のソウルフードです。現在の「ちよぼ焼き」に近い料理になります。小麦粉を水で溶かし、そこにたくわん、こんにゃく、ちくわ、ネギ等を入れて混ぜ合わせ、たこ焼きの鉄板より、さらに小さく、浅いくぼみの鉄板に生地を流し入れます。七輪で焼き目を付けて、焼きあがったら、お好みで醤油や七味をかけて、召し上がられています。各家庭によって、「ちよぼ焼き」に入る具材は様々。「ちよぼ焼き」を家庭で作る



方もいれば、「ちよぼ焼き」を売っているお店がたくさんあり、買って食べられる方もおられたようです。しかし、現在は「ちよぼ焼き」が食べられるお店が少なくなつてしまいました。高齢者の方々に、昔のことを思い出して頂くことと、崇仁デイサービスうるおいでは利用者様と「ちよぼ焼き」作りを行いました。ちよぼ焼き一用の鉄板を手に入られることができず、利用者様が食べに来られた「ちよぼ焼き」とは少し形は違いましたが、「美味しい」「ビールがはしくなるわ」等とお話をしながら、喜んで召し上がりいただきました。とても美味しく、熱々の「ちよぼ焼き」を皆様にも一度是非味わっていただきたいものです。

座り続けて三十余年 番台のおばちゃん

今でも番台のおばちゃんのお名前が呼ばれている畑山ミツ子様 84歳。崇仁第3市営治場に44歳から26年間勤めておられました。その前にも第1・2番場の番台も10年間務めるなど番台のプロ！「昔は煙突から煙が出て情緒があった！周りも賑やかだったけど…今は静しくなった」と話されています。



のぞみの園は働きやすい職場!!

「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証企業です。



●高い年間有給休暇取得率

東九条のぞみの園職員の昨年(平成28年)度の年次有給休暇の取得率は、平均62.6%であり、前年度の繰り越し分を合わせると、68.5%になります(図1)。

これは、全国と同規模企業の昨年度取得率の44.8%、同規模医療・福祉施設の50.2%と比べても解るように、当施設が、有給休暇を取りやすい職場だと言えます。

また、一日単位だけではなく、半日休や時間休としても取得可能です。

企業名：東九条のぞみの園
年次有給休暇取得率
参照データ出所：平成28年度労働条件調査(厚生労働省)
企業規模【100～299人】：従業員【業種】：福祉



●無理のない子育て環境を応援

図2は、過去5年間の育児休暇を取得した職員の数です。これまで出産した女性職員は、全員取得されており、この中には二回目・三回目の方も含まれています。平成27年度には、男性職員も、初めてのお子さん誕生に際し、一年間の育児休暇を取得されました。

本人都合の早期復帰以外は、皆さん一年以上取得した後、育児短時間勤務に変更する事で、復帰後も無理なく子育てとの両立を図られているようです。

図2 育児取得数一覧(性別・期間別)



ワーク・ライフ・バランスとは?

国民一人一人がやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても子育て期・中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・充実できること。

「のぞみの園は働きやすい職場で気に入っている」という職員の声をよく聞きます。そういった明るい雰囲気は、職場の空気としても現れていると感じています。自分のプライベートな生活を大事にしつつ、仕事も長く頑張っていきたいと望んでいる方は、是非、当施設に見学に来て下さい。

新人紹介



小山田 悦子
東九条のぞみデイサービスセンター
【職種】 看護師
【趣味】 洋裁、絵画鑑賞
【一言】 利用者様と年齢が近い分、色々私の方が学ばせて頂くと思います。



津田 直輝
東九条のぞみ特別養護老人ホーム
【職種】 介護職員
【趣味】 知るこゝ、犬の散歩
【一言】 一日でも早く仕事を覚え、チームの一員になり、利用者様の生活をチームで支えたいと思っています。みなさん宜しくお願いします。



佐々木 麻美
東九条のぞみ特別養護老人ホーム
【職種】 介護職員
【趣味】 バスケットボール
【一言】 明るく元気に頑張ります。



霜澤 太
島原地域包括支援センター
【職種】 社会福祉士
【趣味】 園芸的的
【一言】 毎日新しいことを覚えなくてはならないので大変ですが、一歩ずつ利用者様に信頼されるよう頑張ります。

活動レポート 島原

TOPIC

七条第三学区で認知症高齢者声掛け訓練実施



昨年11月25日(土)、地域の各種団体の方々にご協力をいただき、下京区で初めて認知症高齢者への声掛け訓練を実施しました。

訓練は、特別養護老人ホームにお住まいの利用者様が突然行方不明になられたのを想定し、次の3つの心得をもとに取り組みました。

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない



今後、目標として七条第三学区での声掛け訓練を他の学区と共同で行うことや若い世代、子供達へ認知症サポーター講座をもっと開催していくことなど、認知症への理解を深めていく活動をしていかなければならないと参加した業者のある会議でした。

認知症サポーター講座の受講への取り組みなど認知症への理解や認知への活動を地域でされている学区もあり、各学区に声掛け訓練の報告を通して、認知症に対する地域での現状や課題を互田にお聞きする機会がありました。

TOPIC

地域ケア会議開催 認知症への更なる理解を



昨年12月17日(日)に都立・光徳・深島、七条第二の担当4学区地域ケア会議を開催しました。11月の声掛け訓練の様子をDVDで観ていただき、出席者の方々のご意見をいただきました。

のぞみ食堂

〈免疫力UPレシピ〉 3色そぼろ丼



寒い季節は体が冷えて代謝が悪くなりがちです。代謝が悪くなると老廃物が体に貯まり免疫が落ちて健康を損なってしまうます。
そうなる前に、食生活に気を付けて、免疫力を高める食事摂るようにしましょう。

材料(2人分)

・ご飯お好みで ・鶏挽肉200g
・卵2個 ・小松菜 ½束

作り方

- ①鶏挽肉と調味料Aをフライパンに入れ、火にかける前によく混ぜ合わせておく。弱火の中火にかけて、箸を4本程まとめて持ち、よく混ぜる。水分がなくなれば出来上がり。
- ②卵と調味料Bをボールに入れ、よく混ぜ合わせる。フライパンに流し入れ、弱火にかける。箸を4本程まとめて持ち、よく混ぜる。弱火でゆっくり加熱する。卵が細か
- ③小松菜を塩ゆでする。粗熱がとれたら水分を絞り、5mm幅程の小口切りにする。調味料Cと和える。
- ④熱々のご飯に彩りよくのせてできあがり。

- A** 醤油 大さじ2 砂糖 大さじ2
酒 大さじ1 みりん 大さじ1
すりおろし生姜 適量
- B** 砂糖 大さじ1 みりん 大さじ1
塩 1つまみ 牛乳 大さじ1
- C** 醤油 小さじ2 みりん 小さじ1
白胡麻少々 胡麻油 少々



イラスト／東九条特養 岡田里佳

冬が旬の小松菜は、クロロフィルとビタミンA・C・Eを多く含む抗酸化食品ですが、それ以外にも、カルシウムや鉄分などのミネラル分も豊富なので、免疫力だけでなく骨粗鬆症や貧血にも効果的な食品です。さらに免疫力を高めるには、良質なたんぱく質を含んでいる卵や鶏肉と組み合わせると効果が上がります。

管理栄養士 山岡舞由

ご寄付のお礼

- * 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会
- * ノートルダム教育修道女会
- * ノートルダム学院
- 小学校ボランティアサークル
- * 竹内 みち子 様
- * 松谷 博幸 様
- * 恵美 由起子 様
- * 永口 裕子 様

編集後記

2月になると寒さもピークになってきました。これ乗り越えれば、暖かい春の到来。もう一息、寒さの我慢ですね。

この時期になると、梅の花が見頃になります。梅は「松竹梅」と並べておめでたいもののひとつとされています。京都では「梅宮大社」「北野天満宮」「随心院」「貴谷梅林」が有名ですね。澄んだ空気に赤や白の鮮やかな色、春の訪れが待ち遠しくなります。

編集委員 小倉

松原のぞみの郷 閉鎖の挨拶



皆様のご厚情に預かり運営を続けてまいりました「小規模多機能型居宅介護 松原のぞみの郷」は、諸般の事情により去る平成29年12月31日をもちまして、事業を廃止致しました。ご心配をおかけする事態となりましたことをお詫びいたしますと共にこれまでご愛顧賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

施設長 小笠原邦人